当院における臨地実習と新人教育の現状

◎寺井 孝[1)]
厚生連高岡病院[1)]

【はじめに】
当院は富山県西部に位置する市中の一般総合病院である。2017 年から近県の臨床検査技師養成校から毎年数名の臨地実習生を定期的に受け入れるようになったが，指導経験はまだ乏しい。今回，当院病理検査室で実施している実習内容について紹介する。また病理検査部門へ配属された新人技師の育成の現状についても紹介する。
【臨地実習生の指導について】
臨地実習生の指導に当たり重視している点は学内実習では経験できないことを実習期間内で体験することとしている。具体的には実際の臓器を見る機会として手術材料の切出しや術中迅速などの見学に多めの時間を割いている。実技としては包埋・薄切・染色・封入といった病理組織標本作製の一連の流れを実際に行い，自分の作製した標本を観察することによって，より印象に残る実習になるよう心掛けている。標本の観察時にはディスカッション顕微鏡を用いて一緒に観察し，組織像とともにそれぞれの臓器に関連する基礎知識などについて質問と解説などを行い，病理検査以外の臨床検査項目の理解のきっかけになればと思っている。細胞診については穿刺吸引細胞診の標本作製への同行，迅速細胞診の見学，標本観察は正常の扁平上皮細胞や腺細胞、典型的な癌細胞などの解説を行っている。
学生の剖検見学はこれまで機会がなく一度も行ったことはないが，剖検室の見学や器具の説明，臨床検査技師の役割について解説を行っている。
【病理検査技師の新人教育について】
病理検査業務において，病理検査システムや機器の操作，薬液の管理などは指導しやすく習得も早い。しかしながら多様な検体への対応や薄切，用手法の染色といった経験や技術などの指導は困難で習得に時間もかかる。また病理検査に配属された技師にとって細胞検査士の資格取得は避けて通れない現状がある。日本臨床細胞学会主催の細胞検査士養成講習会への参加，富山県内で実施している研修会，他施設での勉強会の参加など院外研修を主としている。ISO15189 認定取得にあたり，標準作業手順書の整備や新人教育訓練プログラムを作成したものの，その後の新人教育の対象者はまだおらず実運用には至っていない。
【課題】
今年度の実習は 2021 年に発刊された臨地実習ガイドラインの評価基準を意識した内容で計画してみたが，評価方法の確立の不十分さと通常業務の傍らでの指導はなかなか予定通りにはいかず，しっかりとした事前準備が必要と感じられた。また新人技師の育成についても共通して言えるが，指導者側のレベルアップが必要と考えられる。
【まとめ】
病理検査室は施設の規模による違いも含めて業務内容や方法が施設ごとに大きく異なると思われると同時に臨地実習生や新人技師の指導・育成方法もさまざまであると推測される。今回，当院の現状を報告させていただくが，他施設の現状についてもディスカッションの中でお聞かせいただければ幸いである。

連絡先：厚生連高岡病院 臨床検査部 0766-21-3930